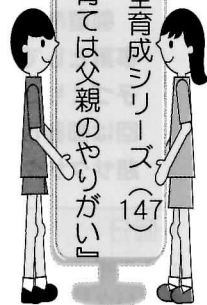


健全育成シリーズ(147)

『子育ては父親のやりがい』



家庭の中で父親の影が薄くなったと言われて久しい。

かつてわが国では「厳父慈母」という言葉があった。厳しい父親と慈しみ深い母親というこの言葉には、父親の持っていた社会的責任感と権威が感じられる。

しかし、最近では「甘父干母」などと言われる。父親は子どもを甘やかすようになり、母親が子どもに口うるさく干渉する家庭が多くなってきた。

いじめ、非行、登校拒否、家出など、親を戸惑わせることが毎日のようにテレビ・新聞などで伝えられている。

親がもともと望んでいなかったこれらの問題行動を示す子どもの生い立ちを見ると、ほぼ共通して言えるのは、その子たちの後ろにあるべき父親の存在が薄いということである。父親の影がほとんどなかったり、父親が父親らしい態度をその子どもに示していないということが多いのである。

母親には、幼稚園や小学校などを通じて、他の母親と子どもの事について話し合い、

母親としての自分を考える機会がある。これに対して、父親は父親同士で話し合う機会は少ない。そのためもあって、子どもの教育に無関心になるか、あるいは頑固にひとつのことに固執してしまうことになる。

ひとり子どもが、将来どんな人間に育っていくかは、親の育て方によることが大きい。

同じ子どもが、しっかりした頼もしい子どもになるか、消極的で意欲の乏しい子どもになるか、勉強好きになるか嫌いになるか、優しい子になるか、粗暴な子になるか。これらはその子どもの親がどう育てたかで決定的な影響を受ける。

母親の躰けを含めた影響も少なくないが、母親の影響は禁止を伴うことが多い。

それに対して父親は生きていく楽しさを与えたり、人生に対する自信を与えることが含まれる。

父親が父親としての自分を自覚し、積極的に働きかけていくのといかないのでは、子どもの人生に大きな差が出てくる。

子どもをよく育てることは父親の重要な仕事であり、やりがいのあることである。

## ネイチャーセンター ガイド (67)



連絡・問合せ先 ☎(45)6222  
宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター  
開館時間：午前9時から午後4時まで  
休館日：月曜日、祝祭日の翌日

お客様が増えて、忘れ物も同じように増えて、うれしさ半分。施設への忘れ物、いつか必ずとりにきてと願う日々、そしてため息・・・自分さえよければいい、そんな人は施設には来てほしくない、そんな人はいないと思うが・・・

### ●知恵くらべ パート2

#### 「ニホンサル」の群れの動きをよむ

先月にもお伝えしましたサルとイノシシの農作物への被害に関する記事。いかがでしたでしょうか？

人それぞれ、立場や状況からいろんな意見をもたれていると思います。その情報をふれあいの里にだけではないでしょうか？ほんの小さな情報でもかまいません。情報交換をしていきたいのです。宝の山でも具体的な策と柵はできていませんが、案はたくさんあります。それらを畑で実践しています。いま、実践しているのは山でサルの声が聞こえたら、犬と人でサルの群れに近づいていきます。ただ、それだけなのですが、効果大です。群れは2週間から3週間畑にこなくなりました。これは畑の位置や常日頃いる場所など条件がよくないと、できない方法でもあります。野生動物との適度な距離を保つことを実践していきたいのです。人間の暮らしも山から遠くかけ離れたものになっています。サルも同じように山から遠くかけ離れたものになってしまっているのでしょうか。その原因を探りたいのです。研究という方法で・・・

サルを撃つだけでこの農作物への被害はおさまるのでしょうか？

サルの動きを必死にとらえようとしている人たちが

います。「なぜ、被害は拡大する一方なのか？」と「なぜ」を追及している専門家があります。柵を講じるのは、策をねってからにしたいのです。この方々に情報をたくさん提供しましょう。

「殺してしまえばいい」そのお気持ちは十分にお察しできます。サルが森からいなくなれば、また新たな被害を人間は自然から受けるのではないのでしょうか？

殺していけばいくほどサルはその数を増やしていくのではないのでしょうか？自然の摂理というもので・・・。人がどこまで自然の摂理に手をだしているのでしょうか？もしかしたらダメなのでは・・・。

### ●子どものひらめきに、かんぱーい！！そして脱帽！！

7月の日帰り体験ツアー2日目、神奈川県秦野市から参加のお子さんが素晴らしい発見をしてくれた。

竹筒でご飯を炊くメニューの時、「ふたがないから、何か考えてくれない」と伝えたら、木の皮や石ころをあたりから拾ってきた。その中に大量の葉っぱがあった。私も持ってきてくれたものを全て使うことにした。

葉っぱがふたの役目をきちんとしてくれたのだ。葉っぱに筒の中の熱せられた蒸気があたることにより、筒にすき間なく葉っぱが密着するのだ。これはすごい！！と褒めに褒めてあげた。現在、その原理を解明中である。報告まで・・・。